ワークショップの目的・内容等について

1 「う・ら・ら」を日々の暮らしに"ちょい足し"してみませんか?

(1)目的

新計画の利用促進に関する実施事業に「町民の意識・行動変容を促す催事の開催」を記載する予定であり、その事前練習として、実際に催事を開催することが主な目的である。

そのため、催事的な色を強く打ち出すほか (図1のポスター参照)、東浦町運行バス 「う・ら・ら」20周年事業にも位置付ける。 なお、ワークショップの題名は「「う・ら・ ら」を日々の暮らしに"ちょい足し"してみ ませんか?」とする。



図1 ワークショップのポスター

(2)ワークショップの到達目標

- ① 参加者自身が、バスを利用する機会を増やせるようになる(自分の変容)
- ② 参加者が周囲の人へ、バスを利用する機会をつくれるようになる(他人に向けた変容)

(3)対象

町内在住の方を対象とする。

特に、今回のワークショップで想定する参加者層は以下のとおりである。

- ① 今後、より多くバスを利用していただけることが見込まれるような方
 - ▶ 例えば、免許返納が必要だと感じている方(高齢者の方、その家族の方など)
- ② バスを利用する機会をつくれる方(上記の「到達目標②」に関連)
 - ▶ 例えば、地域活動に積極的な方、地域の活動を主催するような立場の方など

(4)テーマ・内容

1つのテーブルに3~4名のグループを作り、各グループでの話し合いを中心としたワークショップを行う。3回のプログラムを通して、参加者1人1人に自分らしい「う・ら」とのかかわり方を発見してもらい、上記の到達目標の達成を目指す。ワークショップ各回のテーマ及び内容は表1のとおり。

表 1 ワークショップ各回のテーマ及び内容

	テーマ	内 容
第	本当に 大事なおでかけは何?	「今おでかけしたいところ」、「将来にわたっておでかけしたいと
1		ころ」を可視化することで、日々のおでかけ行動を省みてもら
口		い、自分にとっての「おでかけの大切さ」に気づいてもらう。

フィールドワーク ※感染対策のため、 参加者が個別に自由実施		 ・第1回終了時にお試し乗車券を配布し、各自で実際に「う・ら・ら」へ乗車してもらう。 ・事前に記入用紙を配布し、「良いところ」「危険なところ」「気になるところ」の3つの視点で気づいた点を記入してもらう。 ・現地の写真を撮影した場合、役場に送付してもらい、第2回までに印刷して用意する。 ※情勢を見つつ、可能な場合は自由参加で乗車体験会を行う。
第 2 回	「う・ら・ら」の良いところ、 危険なところ、 気になるところ	・フィールドワークで気づいた点を発表し合い、「う・ら・ら」の良いところや改善点を認識してもらう。
第 3 回	私の暮らしに「う・ら・ら」 を"ちょい足し"してみよ う!	・「う・ら・ら」を使いこなすために、自分や周囲の人の暮らしに「う・ら・ら」を"ちょい足し"するためのレシピを考え、発表し合う。 ※"ちょい足し"レシピの例:自分が利用する機会をつくる、周囲の人が利用する機会をつくる、利用しやすい環境をつくる、等

※各回の最大定員は36名とし、1地区あたり10~12名程度が参加できるようにする。 ※地域差に影響されずワークショップが行えるよう、今回は全地区共通の題材として 「う・ら・ら」を扱うが、鉄道やタクシー等の公共交通について、グループでの話し合い が発展しても差し支えない。

(5)開催日時・場所

表2のとおり開催する (バスの発着時刻に合わせて開催)。

表2 ワークショップの開催日時・場所

	開催日	開催時間	場所
第1回	9月17日(金)	① 森岡、緒川、緒川新田地区の方は	
第2回	10月8日(金)	午後1時25分から(90分ほど) ② 石浜、生路、藤江地区の方は	イオンモール東浦 2階 イオンホール
第3回	10月15日(金)	午前 10 時 45 分から (90 分ほど)	

<u>(6)</u>実施体制

全体進行や説明等を名古屋大学大学院 研究員 大野悠貴氏が務める。

このほか、全体進行を補助するサブ進行役が1~2名、各テーブルでの議論を補助する スタッフとして名古屋大学学生、及び防災交通課職員が4~6名参加する。

(7)参加者の募集

参加者は広報ひがしうら8月号で幅広く募集するほか、地域連絡所長等に本ワークショップの対象にあてはまる住民への声かけ協力を依頼する。

2 意見聴取を目的とした「住民懇談会」の開催

交通計画改定に向けた個別具体的な意見聴取の場として、各地区で住民懇談会を開催する。なお、住民懇談会では、意見聴取を主目的とするため、土日・祝日等の休日開催とする予定である。詳細な開催日時・場所等は調整の上、追って連絡する。